

1 産地の概要

＜対象地域＞ 邑楽館林地域（館林市、邑楽郡板倉町）
 ＜対象品目＞ キュウリ
 ＜産地の現状＞

邑楽館林地域のキュウリ栽培は、家族経営が主となっており、慣行的な栽培方法を行っている農業経営体が多く、担い手に位置づけられている農業者の高齢化及び後継者不足が進行している。今後も産地として生産量の維持・拡大を図るためには、単位あたりの収量増加を図り、効率的な農業経営を行う必要がある。

＜課題＞

環境制御装置などを取り入れ、農業の「見える化」を図り、新規就農者育成においても栽培技術の確立が求められるが、環境制御装置により得られた情報の活用・ノウハウが不足している。そこで、環境制御装置に精通した営農指導員の育成及び、栽培技術の確立が必要である。

2 検討体制

＜邑楽館林農業体系確立推進協議会構成員と役割＞

- ・生産者 → 実証ほ場の提供・検証
- ・デルフィー・ジャパン(株)・誠和(株) → データ分析、栽培指導
- ・農業指導センター、農業技術センター → 調査、データ集計、指導
- ・JA邑楽館林 → 検討会事務、事業の周知、啓発



検討会の様子



栽培指導の様子

3 新たな営農技術体系への転換

＜目指す産地像＞

施設キュウリ栽培における環境制御技術を導入し、データに基づく栽培技術を確立することで生産性を向上させて、産地の生産規模を維持するとともに、若い担い手の確保につなげる。

現在の営農技術体系



新たな営農技術体系



＜新たな営農技術体系の効果(検証結果)＞

品質の向上: A品率68→77% **約9%向上**
 ※実証調査2件の平均値(抑制(9~11月)及び促成(1~3月)の合計)

データを活用した栽培技術の例(かん水量の決め方)

【現在】経験と勘に基づいて感覚的に決定。→晴天日は5分間かん水。

【新技術】日射量12MJ/m²、葉面積(LAI=約2.0)、光透過率70%を基に計算。

→250(L/MJ)×12(日射量)×2/3(葉面積)×0.7(光透過率)=1400(L)



コンサルレポート

＜新たな営農技術体系の今後の取組内容＞

取組主体	R 3	R 4	R 5
邑楽館林農業協同組合 館林地地区農業指導センター	データを活用した栽培技術の周知	データを活用した栽培指導の実践	
農業技術センター	データを活用した栽培技術の研究開発		
I Tベンダー	データの提供・関連情報の発掘		